

2016年度成蹊大学法科大学院入学試験 刑法

【問題1】(配点：50点(1及び2、各25点))

甲の罪責に関する以下の記述について、正しい場合には「正」と、誤っている場合には「誤」と解答用紙の冒頭に記載した上、いずれの場合についても、その理由を簡潔に述べなさい(なお、「誤」と解答した場合で他の刑法上の犯罪が成立する場合等にはその罪名等も理由中で明らかにすること。)

- 1 甲と乙が、共同して丙を殺害する意思をもって丙に対して同時に1発ずつけん銃を発射した。そのうち1発は丙の頭部をかすめたものの命中せず、もう1発が丙の頭部に命中し、丙の頭部に命中した銃弾により丙は死亡した。しかし、丙の頭部に命中した銃弾が甲乙いずれのけん銃から発射されたものであるか判明しなかった。甲及び乙には殺人未遂罪の共同正犯が成立する。
- 2 甲は、乙宅に侵入して財布を窃取し、誰からも追跡されることなく、約2キロメートル離れた場所まで徒歩で移動した後、窃取した財布の中を見たところ、予想していたよりも現金が少なかった。そこで、甲は、再び乙宅に侵入して窃盗を行う目的で乙宅に戻り、玄関を開けたところ、帰宅していた乙に発見され、逮捕を免れるために、乙に対し、反抗を抑圧するに足りる程度の暴行を加え、乙に加療3週間を要する傷害を負わせた。

なお、甲が乙宅に侵入して財布を窃取してから乙に対して暴行を加えるまでの間に約1時間が経過していた。甲には、住居侵入、窃盗及び傷害罪が成立する。

【問題2】（配点：50点）

以下の設例について、甲及び乙の罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点を除く。

甲及び乙は、事故死を装ってXを殺害しようと考え、乙がXを呼び出して岸壁まで来させ、同所において、乙が、その準備した薬剤をコーヒーに混ぜてXに飲用させて昏睡させた後、甲及び乙の両名が、昏睡したXを岸壁から海中に投棄してXを溺死させることを計画した。

乙が、上記計画にしたがってXに電話をかけ岸壁に来るよう告げたところ、Xはこれを了承した。その後、乙は、このまま計画に関与し続けることが怖くなったので、前記岸壁においてXが来るのを待ち受けている甲に対し、「Xのことが可哀そうになりました。Xを殺すのは止めましょう。」と言ったところ、甲は「今更何を言っているんだ。計画通りやる。お前の持っている薬を俺に渡せ。」と言ったので、乙は「わかりました。薬は渡しますが、私はXの来る前に帰ります。」と述べて、甲に対し、自ら準備していた薬剤を手渡し、その場から立ち去った。

甲は一人で計画を実行するしかないと思い、岸壁に現れたXに対し、甘言を弄して乙から受け取った薬剤を飲用させて昏睡させた上、昏睡したXを岸壁から投棄した。なお、後日判明したところによれば、Xは、岸壁から海中に投棄される前に、甲がXに服用させた薬剤の作用により既に死亡していた。